

報告書の記入のよくある訂正等について（その1）

「報告書入力」シート

項目	入力	注意事項
平面の特徴	特徴 短辺幅	
立面の特徴		！入力してください
床仕様	床仕様 吹き抜け	！入力してください ！入力してください
主要な柱径		！入力してください
接合部		！入力してください
使用履歴		※全戸の文字種まで入力
増築	有無/年 状況	※全戸の文字種まで入力
改築	有無/年 状況	※全戸の文字種まで入力
補修	有無/年 状況	※全戸の文字種まで入力
用途変更	有無/年 状況	※全戸の文字種まで入力
特記事項		※全戸の文字種まで入力
特殊構造・特殊工法の有無		
スキップフロア等	無	※原則無
ツーバイフォー工法	無	※原則無
工業化住宅	無	※原則無
混構造 RC+木造・S+木造等	無	※原則無
伝統構法型木造住宅部分	無	

「報告書印刷」シート

3. 現地調査結果(現地調査票)			
建築物概要			
地域係数 Z	1.0	積雪深さ	無(1m未満)
地盤種別 (液状化危険度) (地盤の対策)	普通(軟弱地盤割増1.0)		
地形形状 (地形の対策)			
基礎			
屋根仕様			
壁仕様	外壁		内壁
建物の重さ			
平面の特徴			
立面の特徴			
床仕様			
吹き抜け			
主要な柱径			
接合部			
増築	無	増築・状況	-
改築	無	改築・状況	-
補修	無	補修・状況	-
用途変更	無	用途変更・状況	-
特記事項	年度選択等が出来ない場合はここに記入してください。		

増築・改築・補修・用途変更の部分を入力した場合必ず右側の年度を選択入力してください

報告書作成シート（エクセル）ver1.3.2以前をご使用の場合は年度選択が平成9年までとなっています。年度選択等が出来ない場合は特記事項の部分に記入してください。

「報告書入力」シート

部分点検調査票	調査内容	コメント ※全戸の文字種まで
建物周囲の地盤条件	擁壁等はない	
構造耐力上主要な軸組等		
柱: 部材の断面欠損	部材の状況は確認不能	
梁: 部材の断面欠損	部材の状況は確認不能	
桁: 部材の断面欠損	部材の状況は確認不能	
筋かいの有無	確認不能	※合意のコメントに影響します
筋かい等: 部材の断面欠損	筋かいの状況は確認不能	
土台と柱: 接合金物	不明	確認不能
柱と梁桁: 接合金物	不明	確認不能
筋かい材: 接合金物	不明	確認不能
床下部分: 接合方法	確認不能	床下部分の調査
梁と柱、差し鴨居: 接合方法	確認不能	
筋かい端部: 接合方法	確認不能	
水平剛性の確保		
2階床面又は小屋梁面	問題無	
吹抜け	吹抜けなし	
下屋、増築部	下屋や増築部はない	

項目	選択項目
建物周囲の地盤条件	擁壁等はない
	擁壁等の傾斜、亀裂等がある
	擁壁等の傾斜、亀裂等がない
構造耐力上主要な軸組等	部材の断面欠損
	部材に大きな欠きこみ、割れがある
	部材に大きな欠きこみ、割れはない
	部材の状況は確認不能
筋かい等: 部材の断面欠損	筋かいに大きな欠きこみ、割れがある
	筋かいに大きな欠きこみ、割れはない
	筋かいの状況は確認不能
	筋かいなし(伝統構法)
筋かいの有無	筋かいを図面で確認
	筋かいを目視で確認
	筋かいを図面と目視で確認
	確認不能
土台と柱: 接合金物	有
	無
	不明
柱と梁桁: 接合金物	ゆるみ、錆、腐食等がある
	ゆるみ、錆、腐食等はない
	確認不能
筋かい材: 接合金物	確認不能
	足固め、根がらみ等で固められている(問題無)
	足固め、根がらみ等がない(問題有)
床下部分: 接合方法	確認不能
	問題無
梁と柱、差し鴨居: 接合方法	柱から抜け落ちる可能性がある
	確認不能
筋かい端部: 接合方法	問題無
	引張・圧縮に対して抜けたり、踏み外す可能性がある
2階床面又は小屋梁面 水平剛性の確保	確認不能
	火打ち等はあるが、小屋裏金物が十分使用されていない
	火打ち等はないが、小屋裏金物は使用されている
	火打ち等がなく、小屋裏金物も十分使用されていない
吹抜け	吹抜けなし
	吹抜けがあり対策、補強されている
下屋、増築部	吹抜けがあり対策、補強されてない
	下屋や増築部はない
	母屋との接合部分に金物が十分使用されていない
	問題無
	接合部は確認不能

「報告書印刷」シート

部分点検調査票(評点に反映しない部分)目視調査により、調査可能な部分について記入	調査内容	コメント
建物周囲の地盤条件		
構造耐力上主要な軸組等	柱	部材の断面欠損
	梁	
	桁	
	筋かい等	
土台と柱	土台と柱	接合金物
	柱と梁桁	
	筋かい材	
床下部分	床下部分の調査	
梁と柱、差し鴨居		
筋かい端部	筋かい端部	接合方法
	2階床面又は小屋梁面	
水平剛性の確保	吹抜け	
下屋、増築部		

床下部分の目視調査等が行われた場合部分点検調査表と劣化度調査表に記入を行ってください。

原則として報告書入力は左の各項目の選択項目より選択して頂きます。建築士としての知識により該当する選択項目が無い場合にはコメント欄に入力を行ってください。

報告書の記入のよくある訂正等について（その2）

「報告書入力」シート

劣化度調査票		劣化現象 ※存在があるもののみ入力チェックする
部位	存在↓	
屋根葺き材: 金属板	有	
屋根葺き材: 瓦・スレート	有	
軒・呼び樋	有	
縦樋	有	
外壁仕上げ: 木製板、合板	有	
外壁仕上げ: 窯業系サイディング	有	
外壁仕上げ: 金属サイディング	有	
外壁仕上げ: モルタル	有	
露出した躯体	有	
バルコニー・手すり壁: 木製板、合板	有	
バルコニー・手すり壁: 窯業系サイディング	無	
バルコニー・手すり壁: 金属サイディング	無	
バルコニー・手すり壁: 外壁との接合部	無	
バルコニー・床排水	無	
内壁: 一般室内壁、窓下	有	
内壁: 浴室タイル壁	有	
内壁: 浴室タイル壁以外	有	
床面: 一般室	有	
床面: 廊下	有	
床下	有	

露出した躯体の取り扱いについて

木造住宅の耐震診断調査等を行っていただいています。常識の範囲内として、屋外で露出した木造の構造体について記入してください。（例：土台、柱、梁、桁等）

床下部分の調査と劣化度

床下部分の目視調査等が行われた場合部分点検調査表と劣化度調査表に記入を行ってください。

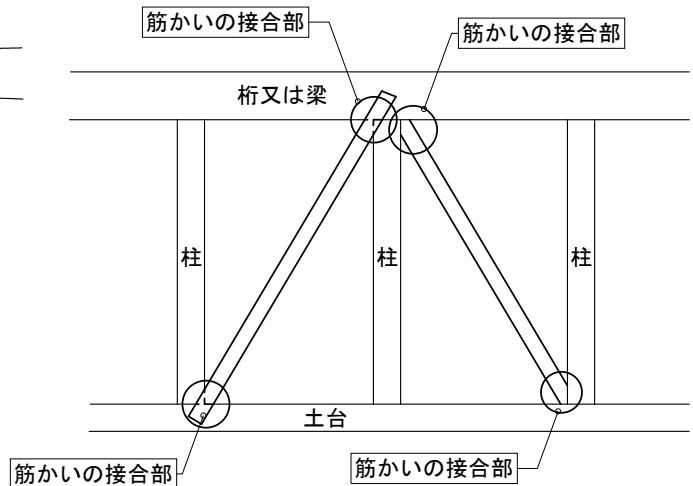
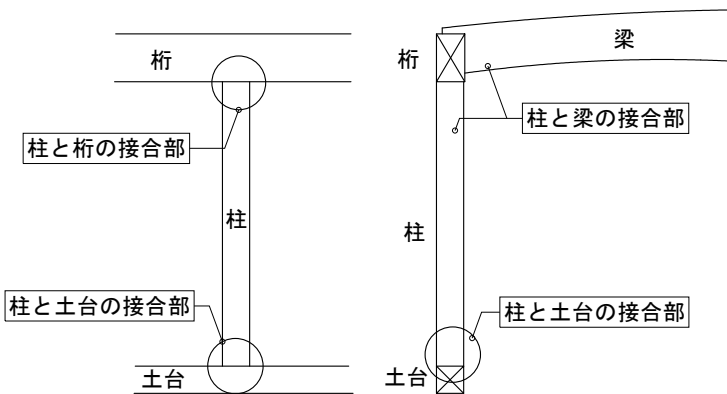
「報告書印刷」シート

劣化度調査票				
部 位	材料、部材等	存在	劣化事象	劣化度
屋根葺き材	金属板	有		
	瓦・スレート	有		
樋	軒・呼び樋	有		
	縦樋	有		
外壁仕上げ	木製板、合板	有		
	窯業系サイディング	有		
	金属サイディング	有		
	モルタル	有		
露出した躯体		有		
バルコニー	手すり壁: 木製板、合板	有		
	手すり壁: 窯業系サイディング	無		
	手すり壁: 金属サイディング	無		
	手すり壁: 外壁との接合部	無		
床排水		無		
内壁	一般室	有		
	浴室	有		
床	床面: 一般室	有		
	床面: 廊下	有		
床下		有		

バルコニー等の取り扱い

後施工形式のバルコニーは該当しません。構造体と一体となっている形式のバルコニーについて調査後記入してください。（アルミ製等の屋根置き・柱建て形式等は該当しません）

接合金物の確認の場合



壁の入力

壁仕様入力

外面: []
 芯: []
 外面: []

クリア 全て不明 合計強さ倍率 = 0.00

壁仕様は左記3項目を全て選択してください。

「壁の耐力の考え方」

耐力壁の考え方は、施行令第四十六条（構造耐力上必要な軸組等）の「壁量計算」を行う場合と同じです。仕様によって既設建物の耐力評価が著しく過大評価となる場合があります。建築士の良識の範囲で選定してください。

外面: 0	-	上段「外面」及び下段「外面」の入力を行わなかった場合
芯: 1.6	筋かい木材15x90以上, 端部金物あり(片筋)	
外面: 0	-	
外面: 0	無し	全ての欄に入力を行った場合
芯: 1.6	筋かい木材15x90以上, 端部金物あり(片筋)	
外面: 1.7	土塗り壁 塗厚50未満	

WE壁入力時の耐力評価の参考値-1 (財) 日本建築防災協会資料による。

壁の耐力評価は下記表のように仕様等が定められています。

WE壁入力時には過大評価とならないように壁仕様を決めてください。

表4.5(a) 軸組等の要素基準耐力と要素基準剛性(在来軸組構法用、伝統構法用)

工法の種類		基準耐力 (kN/m)	剛性 (kN/rad./m)	所定の接合金物
土塗り壁	塗厚 50mm未満	1.7	260	—
	塗厚 50mm以上70mm未満	2.2	400	—
	塗厚 70mm以上90mm未満	3.5	640	—
	塗厚 90mm以上	3.9	700	—
筋かい(鉄筋φ)	圧縮筋かい	0	0	貫通ナット締め又は8-CN90
	引張筋かい	3.1	430	
	圧縮・引張を区別しない場合	1.6	210	
筋かい(木材15×90以上)	圧縮筋かい	1.7	320	びんた伸ばし5-N65
	引張筋かい	1.3	320	
	圧縮・引張を区別しない場合	1.6	320	
筋かい(木材30×90以上)	圧縮筋かい	2.9	510	BP又は同等品
	引張筋かい	1.8	450	
	圧縮・引張を区別しない場合	2.4	480	
筋かい(木材45×90以上)	圧縮筋かい	3.7	670	BP2又は同等品
	引張筋かい	2.6	640	
	圧縮・引張を区別しない場合	3.2	650	
筋かい(木材90×90以上)	圧縮筋かい	6.9	1010	ボルトM12
	引張筋かい	2.7	640	
	圧縮・引張を区別しない場合	4.8	830	

表4.6 外壁面の要素基準耐力と要素基準剛性(在来軸組構法用、伝統的構法用)

工法の種類		基準耐力 (kN/m)	剛性 (kN/rad./m)	断面等	釘	釘の本数または間隔	
耐力壁	大壁	きずりを釘打ちした壁	1.1	160	15×45mm以上	N50	—
		構造用合板	5.2	730	厚さ7.5mm以上	N50	150mm以下、四周打ち
		構造用パネル(OSB)	5	750		N50	150mm以下、四周打ち
		硬質木片セメント板	4.1	970	厚さ12mm以上	N50	150mm以下、四周打ち
		フレキシブルボード	3.5	810	厚さ6mm以上	GNF40 またはGNC40	150mm以下、四周打ち
		石綿パーライト板	3.4	480	厚さ12mm以上	GNF40 またはGNC40	150mm以下、四周打ち
		石綿ケイ酸カルシウム板	2.9	760	厚さ8mm以上	GNF40 またはGNC40	150mm以下、四周打ち
		炭酸マグネシウム板	2.8	740	厚さ12mm以上	GNF40 またはGNC40	150mm以下、四周打ち
		パルプセメント板	2.7	540	厚さ8mm以上	GNF40 またはGNC40	150mm以下、四周打ち
		シージング インシュレーションボード	2	400	厚さ12mm以上	SN40	外周100mm以下、 中間200mm以下、四周打ち
		ラスシート	2.7	700	厚さ0.4mm以上	N38	—
雑壁	大壁	モルタル塗り	1.6	320			
		窯業系サイディング張り(釘止め)	1.7	260			

註:1)大壁で胴縁下地の壁面の場合は基準耐力の代わりに修正基準耐力を用いる。修正基準耐力は以下とする。

基準耐力	修正基準耐力
2 kN以下	基準耐力×1.0
kN超 4 kN以下	基準耐力×(-1/8 × 基準耐力 + 1.25)
4 kN超	3 kN

WE E壁入力時の耐力評価の参考値－2 (財) 日本建築防災協会資料による。

壁の耐力評価は下記表のように仕様等が定められています。

WE E入力時には過大評価とならないように壁仕様を決めてください。

表4.7 内壁面の要素基準耐力と要素基準剛性(在来軸組構法用、伝統的構法用)

工法の種類			基準耐力 (kN/m)	剛性 (kN/rad./m)	断面等	釘	釘の本数または間隔
耐力壁	大壁	石膏ボード張り(直張り)	2.1	560	厚さ12mm以上	GNF40 またはGNC40	150mm以下、四周打ち
		構造用合板(直張り)	5.2	730	厚さ7.5mm以上	N50	150mm以下、四周打ち
		構造用パネル(直張り)	5	750		N50	150mm以下、四周打ち
	真壁	石膏ボード張り(貫仕様)	1.6	440	厚さ12mm以上	GNF40 またはGNC40	150mm以下
		構造用合板(貫仕様)	3.3	460	厚さ7.5mm以上	N50	150mm以下
品確法 準耐力壁	大壁	構造用合板	3.1	440	厚さ7.5mm以上	N50	150mm以下、川の字打ち
		構造用パネル	3.2	480		N50	150mm以下、川の字打ち
		パーティクルボード	2.8	560	厚さ12mm以上	N50	150mm以下、川の字打ち
		石膏ボード(直張り)	1.3	340	厚さ12mm以上	GNF40 またはGNC40	150mm以下、川の字打ち
		きずり等を釘打ちしたもの	1	140	15×45mm以上		
雑壁	大壁	石膏ボード張り(非耐力壁仕様)	1.2	320	厚さ12mm以上	GNF40 またはGNC40	200mm以下、川の字打ち
		化粧合板	1.4	200	厚さ5.5mm以上	N38	200mm以下、川の字打ち
		構造用合板(非耐力壁仕様)	2.5	360	厚さ7.5mm以上	N50	200mm以下、川の字打ち
		構造用パネル(非耐力壁仕様)	2.5	360		N50	200mm以下、川の字打ち
	真壁	石膏ボード張り(非耐力仕様)	1.3	300	厚さ12mm以上	GNF40 またはGNC40	200mm以下、川の字打ち
		化粧合板	1	150	厚さ5.5mm以上	N38	200mm以下、川の字打ち

註: 1)大壁で胴縁下地の壁面の場合は基準耐力の代わりに修正基準耐力を用いる。修正基準耐力は以下とする。

基準耐力	修正基準耐力
2 kN以下	基準耐力×1.0
2 kN超 4 kN以下	基準耐力×(-1/8 × 基準耐力 + 1.25)
4 kN超	3 kN

2) 大壁で胴縁下地の壁面の場合は剛性の代わりに修正剛性を用いる。修正剛性は略

3)石こうボードは、GNP40に代えて、SFN45、WSN、DTSNでもよい。